

10-9 地形及び地質

10-9-1 工事に伴う重要な地形及び地質への影響

(1) 調査結果

1) 既存資料調査

① 国立公園、国定公園、県立自然公園等の分布

山梨県内の自然公園は、「4-1-8 自然環境保全に係る地域」に記載したとおりである。

② 重要な地形及び地質の分布状況及び特性

計画地及びその周辺で指定されている重要な地形及び地質は、「4-1-5 地形及び地質」に記載したとおりである。

(2) 予測及び評価の結果

1) 予測項目

発電所の工事に係る重要な地形及び地質への影響とした。

2) 予測方法

発電所の工事に係る土地の改変範囲とその程度を把握し、重要な地形及び地質の分布を重ね合わせるにより改変の程度を把握した。

3) 予測地域・予測地点

計画地及びその周辺の重要な地形及び地質への影響が生じる恐れのあると認められる範囲とした。

4) 予測対象時期

予測対象時期は、工事中とした。

5) 予測結果

本事業では、発電所の工事に伴い重要な地形及び地質の直接的な改変は行われない。

6) 環境保全措置

本事業では、発電所の工事に伴い重要な地形及び地質の直接的な改変は行われないことから、環境保全措置は講じない。

7) 評価方法

① 回避・低減の観点

事業者により実行可能な範囲内で回避または低減されるかどうかを明らかにした。

8) 評価結果

① 回避・低減の観点

本事業では、発電所の工事に伴い改変または消失する重要な地形及び地質は存在しないため、事業に伴う著しい環境影響を及ぼすことはないと考ええる。

以上のことから、工事に伴う重要な地形及び地質への影響は事業者により回避される。

10-9-2 工事に伴う急傾斜地および不安定地形への影響

(1) 調査結果

1) 既存資料調査

① 地形の概況

計画地及びその周辺の地形は、「4-1-5 地形及び地質」に記載したとおりである。

② 地質の概況

計画地及びその周辺の地質は、「4-1-5 地形及び地質」に記載したとおりである。

2) 現地調査

① 現地調査期日

調査期日は表 10-9-1 に示すとおりである。

表 10-9-1 現地調査期日

調査内容	調査期日
地盤調査	平成23年4月12日～18日
現地踏査 (傾斜地・不安定地形)	平成25年9月28日

② 計画地の構成地盤

機械ボーリング工及び標準貫入試験の調査地点は、「9-7 水象」の図 9-7-1 に、調査結果は、「10-7-2 発電所の稼働に伴う地下水の水象への影響 (1) 調査結果 1) 現地調査 ② 地質の状況」に示したとおりである。

③ 傾斜地および不安定地形

図 10-9-1 に土砂崩れによる裸地の分布を示す。踏査の結果、A 沢集水域において土砂崩れによる裸地が確認された。場所は「第 4 章 図 4-1-6 地形分類」で A 沢上流部に示されている崩壊地とほぼ同じ位置であった。裸地の範囲は、谷部を中心に幅約 10m、長さ約 50m であった。状況写真は、写真 10-9-1 に示すとおりである。



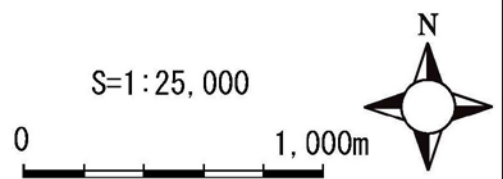
写真 10-9-1 A 沢最上流部の裸地



凡例

- : 計画地
- : 土砂崩れによる裸地

図 10-9-1 土砂崩れによる裸地の分布



(2) 予測及び評価の結果

1) 予測項目

発電所の工事に係る急傾斜地および不安定地形への影響とした。

2) 予測方法

発電所の工事に係る土地の改変範囲とその程度を把握し、急傾斜地及び不安定地形の分布を重ね合わせるにより改変の程度を把握した。

3) 予測地域・予測地点

計画地及び工事の影響が生じるおそれのある南側の後背地（鶴ヶ鳥屋山北側斜面）の範囲とした。

4) 予測対象時期

予測対象時期は、工事中とした。

5) 予測結果

本事業では、土地の改変範囲は南側の後背地の急傾斜地を含まず、事業の実施に伴う急傾斜地及び不安定地形への変化はないと予測される。

6) 環境保全措置

本事業では、土地の改変範囲は南側の後背地の急傾斜地を含まず、事業の実施に伴う急傾斜地及び不安定地形への変化はないと予測されることから、環境保全措置は講じない。

7) 評価方法

① 回避・低減の観点

現況の地形及び地質に対する改変の範囲を明らかにし、事業者により実行可能な範囲内で回避または低減されるかどうかを明らかにした。

8) 評価結果

① 回避・低減の観点

本事業では、土地の改変範囲は南側の後背地の急傾斜地を含まず、事業の実施に伴う著しい環境影響を及ぼすことはないと考ええる。

以上のことから、工事に伴う重要な地形及び地質への影響は事業者により回避される。